

地歴公民 (日本史)

名古屋大学 文学部、情報学部 (人間・社会情報学科) (前期) 1 / 2

<全体分析>

試験時間 90分

解答形式

論述式と記述式の併用だが、論述式が中心。論述式の解答分量は、解答用紙の行数により指定している。

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・**やや増加**・増加)

昨年と同様大問4問であった。論述問題数は昨年と同じ21問だが、解答行数は34行から42行(一昨年と同じ)に増加した。その分記述問題が、19問から3問に減少した。

難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

設問間での難易度の差はあるが、全体には昨年とほぼ同じ程度の難易度であった。

出題の特徴や昨年との変更点

大問4問構成、問題Ⅰは古代～中世前期、問題Ⅱは中世、問題Ⅲは近世、問題Ⅳは近現代であった。例年、史料・図版・表などの諸資料を利用した問題が出題されており、今年は全ての大問で史料や図版を使った問題が出題された。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	論述式 記述式	古代～中世における軍事	問1: 多賀城に陸奥国府がおかれたことを想起する。 問2: 兵士から一部が衛士として動員されたことを答える。 問3: 庸が計帳に基づき徴収されることに着目する。 問4: 応天門の変の経緯と政治的影響を答える。 問5: 基本的知識を問う問題。 問6: 京都大番役について説明すればよい。	標準 標準 標準 標準 やや易 標準
II	論述式	中世の貿易や経済、文化	問1: 建長寺船派遣を想起する。 問2: 図版から定期市で米や布などが売られていることを読み取る。 問3: 徒然草がまとめられるのは鎌倉末期。 問4: 問題文をヒントに考える。 問5: 伝馬制の役割を手がかりにしたい。	標準 標準 易 やや難 やや難
III	論述式 記述式	江戸時代の西尾藩	問1: 石高が軍役の基準や大名の格を表すものであり、年貢の賦課基準であることに気付きたい。 問2: 「具体例」がどのレベルを指すのかわかりにくかったであろう。 問3: 歴史的事実として由井正雪の乱を示す。 問4: 枠内がほとんど武家地であることに注目したい。 問5(1): 農民が武士と分けられていることを何と考えるか考える。 問5(2): 識字力のある武士が、農村に居住しなくなったことを想起する。	やや難 やや難 やや難 やや難 やや易 標準

地歴公民 (日本史)

名古屋大学 文学部、情報学部 (人間・社会情報学科) (前期) 2 / 2

IV	論述式	近現代の教育	問1：意味の説明までしていることに注目する。 問2：知識だけでなく、史料内容を踏まえた解答をつくりたい。 問3：小学校の設立の遅延、授業料負担と労働力としての必要性と三点答えたい。 問4：フリガナが付されたということは日本語が読めない人が多かったということであろう。 問5：国家による教育統制が強まることを示す。 問6：60年代後半の学園紛争などを説明する。	やや易 標準 標準 やや難 やや難 難
----	-----	--------	--	------------------------------------

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

単純な知識だけで答えられる問題が少なく、相当な歴史的理解力・応用力が必要な問題が中心であり、歴史用語の暗記では対応できない。歴史的背景や因果関係を意識した学習が必要である。また、史料・図版を利用した問題が多く、史料や図版の読み取りの練習をしておく必要がある。加えて、設問要求を確実に把握し、簡潔に文章化する表現力の養成も不可欠である。